Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 24第2号
2024年（令和六年） 4月12日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ10階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

当週（4月4日～10日）の国際石油市場は、堅調に推移した。WTI先物は、イスラエルによる在シリア・イラン大使館攻撃などパレスチナ情勢の緊迫化、ウクライナによるロシア製油所へのドローン攻撃が続く中、4日、5日続伸の86.59ドルで始まり、週末5日は86.91ドルに達したが、週明け8日は過度な警戒感の後退で7営業日ぶりに反落、9日も85.23ドルまで続落、10日には3日ぶりに反発し、86.21ドルで終わった。

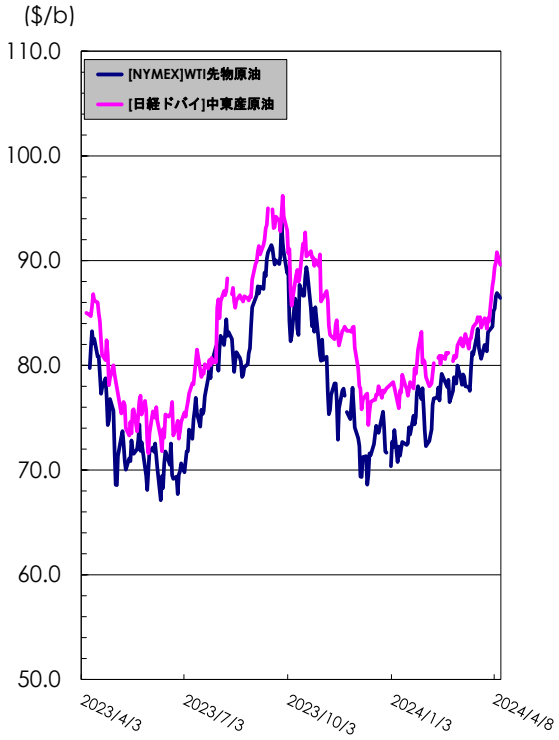
また、中東産ドバイ原油/東京市場（5月渡し）も、前週（3月28日～4月3日）84.20～89.40ドルの範囲で推移したが、当週は、4月4日89.80ドル、5日90.80ドル、8日89.60ドル、9日90.30ドル、10日89.50ドルと堅調に推移した。

対ドル為替レート（TTM）は前週（3月28日～4月3日）151.41～151.76円の範囲で推移したが、当週は、4月4日151.74円、5日150.99円、8日151.80円、9日151.98円、10日151.82円と、ほぼ横ばいとなった。

財務省が4月5日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、3月中旬の原油輸入平均CIF価格78,755円で前旬比355円高、ドル建て83.45ドルで前旬比0.47ドル高、為替レートは1ドル/150.04円。

そのような中で、4月8日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.4円高、軽油も同0.5円高、灯油も6円高（18リットルベース）、ガソリンの全国平均価格は175.0円となった。4月11日～17日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は28.7円（補助金がない場合の次週予想価格203.5円で、固定支給部分10.2円、185円を超える変動支給部分は13.7円）となった。

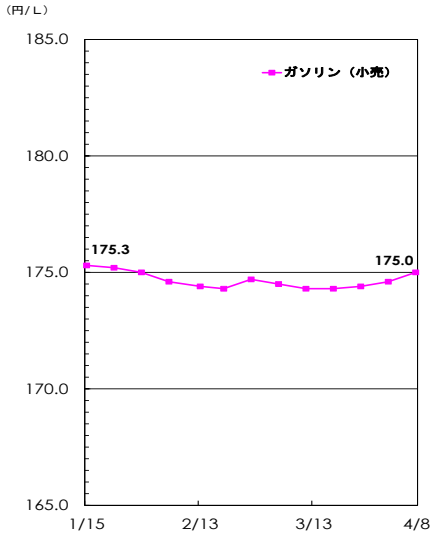
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	3/31 ～ 4/6	2,713	▼ -23	▼ －
	トッパー稼働率	（%）	〃	75.5	▼ -0.6	▼ －
	原油在庫量	（千kl）	4/6	10,821	▲ 364	▼ －
価格	中東産原油（日経ドバイ）	（$/bbl）	4/8	89.60	▲ 2.00	▲ 4.8
	WTI先物原油（NYMEX）	（$/bbl）	4/8	86.43	▲ 2.72	▲ 6.7
	原油ＣＩＦ単価	（$/bbl）	3月中旬	83.45	▲ 0.47	▼ -1.98
	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	78,755	▲ 355	▲ 6,267
	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	150.04	▲ 0.16	▼ -15.14
	外国為替ＴＴＳレート	（¥/$）	4/8	152.80	▼ -0.37	▼ -19.18



（単位：千kl、円/㍑）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		3/31 ～ 4/6	878	▲ 46	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	712	▼ -5	▼ –
	輸出		〃	96	▼ -19	▲ –
	在庫		4/6	1,634	▲ 70	▼ –
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	4/2 ～ 4/8	82.6	▲ 1.6	▲ 9.6
		（TOCOM/中部）	4/8	82.0	▲ 1.0	▲ 6.8
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	4/8	175.0	▲ 0.4	▲ 6.7

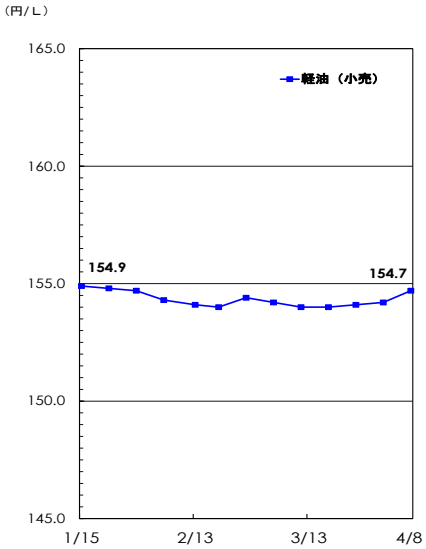
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

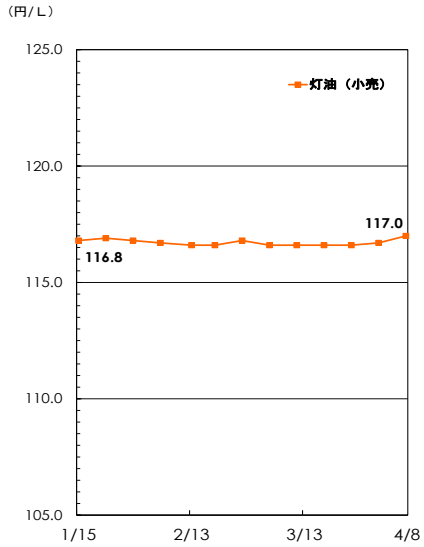
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		3/31 ～ 4/6	709	▼ -36	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	638	▲ 23	▲ –
	輸出		〃	92	▼ -195	▲ –
	在庫		4/6	1,319	▼ -22	▲ –
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	4/2 ～ 4/8	84.3	▲ 1.3	▲ 5.3
		（TOCOM/中部）	4/8	–	–	–
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	4/8	154.7	▲ 0.5	▲ 6.3

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		3/31 ～ 4/6	141	▼ -146	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	182	▼ -153	▼ –
	輸出		〃	21	▲ 21	▲ –
	在庫		4/6	1,051	▼ -62	▼ –
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	4/2 ～ 4/8	83.0	▲ 0.4	▲ 8.0
		（TOCOM/中部）	4/8	83.0	➡ 0.0	▲ 6.7
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	4/8	117.0	▲ 0.3	▲ 5.9



■ 関連情報

1　海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（3/28～4/3）のNYMEX・WTI先物市場は83.17～85.43ドルの範囲で推移した。

当週、4月4日は、2日のイスラエルによるイラン大使館攻撃に3日イランが報復を宣言するなどパレススチナ情勢の緊迫化、ウクライナによるロシア製油所へのドローン攻撃の激化、3日のOPECプラスの現行減産体制の維持・延長確認で、5日続伸し、約5か月ぶりの高値を記録した。5月物終値は前日比1.16ドル高の86.59ドル。

週末5日は、引き続き、パレスチナ紛争、ウクライナ戦争の緊張が激化する中、3月の米国の雇用統計が堅調であったことから、米国経済の底堅さが示された形となり、6日続伸した。5月物終値は前日比0.32ドル高の86.91ドル。

週明け8日は、エジプトでハマスとイスラエルの停戦交渉が再開、パレスチナ紛争への過度の警戒感が後退、7営業日ぶりで反落した。5月物終値は前日比0.48ドル安の86.43ドル。

9日は、イランの革命防衛隊の海軍司令官が、ホルムズ海峡の封鎖を示唆する一方で、ハマス・イスラエル交渉は継続しており、過度の警戒感は後退、この日、米国株式市場が低下、これに引きずられる形で続落した。5月物終値は前日比1.20ドル安の85.23ドル。

10日は、ハマス・イスラエルの停戦交渉が続く中、イランによるイスラエルに対する報復が懸念され、湾岸地域の緊張が高まり、3日ぶりに反発した。メキシコ国営石油ペメックスが5月原油輸出量の33万b/d削減を発表したことも値上がり要因。5月物終値は、同0.98ドル高の86.21ドル。

2　海外/米国石油市場

4月10日発表の5日時点の米国エネルギー情報局（EIA）の米国国内週間在庫統計は、原油が前週比580万バレル増と市場予想を上回る3週連続の積み増しで、ガソリンも同700万バレル増と市場予想に反する積み増しであった。

EIAによると4月8日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比7.4セント高の1ガロン3.591ドル（144.8円/㍑）と2週ぶりの値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比6.5セント高の1ガロン4.061ドル（163.7円/㍑）と2週ぶりの値上がり。

ベーカーヒューズ社によると、米国国内稼働石油掘削装置は、4月5日時点で、前週比2基増の508基と3週ぶりの増加であった。

3　国内/製品出荷量

石連週報によれば、2024年3月31日～4月6日に休止したトッパー能力は45.6万バレル/日で、前週に対して15.3万バレル/日増加した（全処理能力は323.0万バレル/日）。

原油処理量は271.3万klと、前週に比べ2.3万kl減少。前年に対しては19.1万klの減少。トッパー稼働率は75.5%と前週に対して0.6ポイントの減少、前年に対しては2.8ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて灯油、軽油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/5.6%増、ジェット/39.2%増、灯油/50.8%減、軽油/4.8%減、A重油/10.0%増、C重油/35.5%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl（前週比0.8万kl減）。軽油の輸出は9.2万kl（前週比19.5万kl減）。

出荷（輸入分を除く）は前週に比べて軽油、C重油で増加し、その他の油種で減少した。前年比ではジェット、軽油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は71.2万kl（対前週0.6%減）と2週連続で減少した。ジェット9.7万kl（対前週26.1%減）、灯油18.2万kl（対前週45.8%減）、軽油63.8万kl（対前週3.9%増）、A重油17.3万kl（対前週28.6%減）、C重油13.0万kl（対前週33.2%増）。

（単位：千KL）

	今週 (3/31 ~ 4/6)	前週 (3/24 ~ 3/30)	前週比
ガソリン	712	717	▼ -5 (-1%)
ジェット燃料	97	131	▼ -34 (-26%)
灯油	182	335	▼ -153 (-46%)
軽油	638	615	▲ 23 (4%)
A重油	173	243	▼ -70 (-29%)
C重油	130	98	▲ 32 (33%)
合　計	1,932	2,139	▼ -207 (-10%)

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

4　国内/製品在庫量

4月6日時点の在庫は灯油、軽油で取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては軽油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。

ガソリンは163.4万kl、前週差7.0万kl増。前年に対しては2.5万kl少ない。

灯油は105.1万kl、前週差6.2万kl減。前年に対しては16.8万kl少ない。

軽油は131.9万kl、前週差2.2万kl減。前年に対しては9.2万kl多い。

A重油は63.4万kl、前週差3.3万kl増。前年に対しては9.7万kl少ない。

C重油は177.3万kl、前週差4.3万kl増。前年に対しては0.7万kl多い。

（単位：千KL）

	今週 (4/6)	前週 (3/30)	前週比	
ガソリン	1,634	1,564	▲ 70	(4%)
ジェット燃料	698	682	▲ 16	(2%)
灯油	1,051	1,113	▼ -62	(-6%)
軽油	1,319	1,341	▼ -22	(-2%)
A重油	634	601	▲ 33	(5%)
C重油	1,773	1,730	▲ 43	(2%)
合　計	7,109	7,031	▲ 78	(1.1%)

5　国内/元売会社製品卸価格

4月2日～4月8日のドル建て中東原油価格は値上がり、為替レートはほぼ横ばいで、円建て輸入原油価格は値上がりし、元売会社の卸価格建値は値上げになったものと見られる。

しかし、上記コスト上げに、補助金増額分を考慮すると、4/11～4/17の実質卸価格は値下げとなった模様。

6　国内/製品小売価格

4月8日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.4円高の175.0円、軽油も0.5円高の154.7円、灯油は18㍑ベースで6円の値上がりの2,106円（1㍑ベースでは0.3円の値上がりの117.0円）。ガソリンは3週連続の値上がり、軽油も3週連続の値上がり、灯油は2週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが35都府県、横ばいは4府県、値下がりが8道県だった。全国最安値は岩手県の169.0円、その次は徳島県の169.3円であった。他方、最高値は長野県の185.5円。最も値上がりしたのは香川県・徳島県（同2.4円高）、最も値下がりしたのは愛知県（同1.1円安）だった。

次回調査時（4/15）のガソリンの小売価格は、小幅な値動きが予想される。

（単位：円/㍑）

（資エ庁公表）[週動向]		今週　(4/8)	前週　(4/1)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	175.0	174.6	▲ 0.4	23/9/4	186.5
	灯油	117.0	116.7	▲ 0.3	08/8/11	132.1
	軽油	154.7	154.2	▲ 0.5	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）に掲載しています。
次回（2024第3号）の公表は、4/19（金）14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油価格】〈 WTI先物原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場（取引の中心限月）の午後の中値を採用。 ※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。
為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉
約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁ーHPに掲載）。